

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果報告【中学校】

1 調査日

令和5年4月18日（火）

2 調査集計対象

中学校第3学年生徒 全国 892,738名（うち江戸川区 4,611名）

3 区内実施校数

全中学校 32校

4 調査目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

5 調査内容

① 教科に関する調査

- 国語・数学・英語

② 生活習慣や学習環境に関する調査

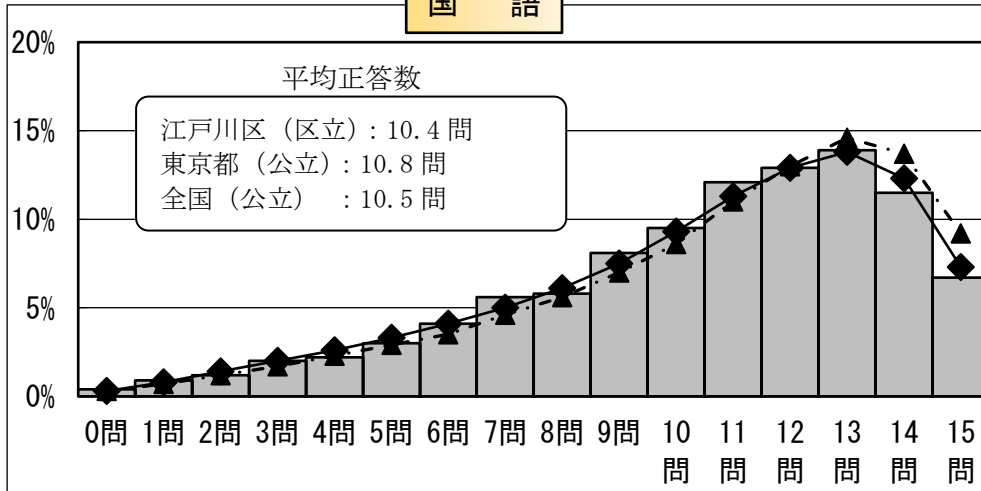
- 生徒質問紙調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査）
- 学校質問紙調査（指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況に関する調査）

江戸川区教育委員会教育指導課

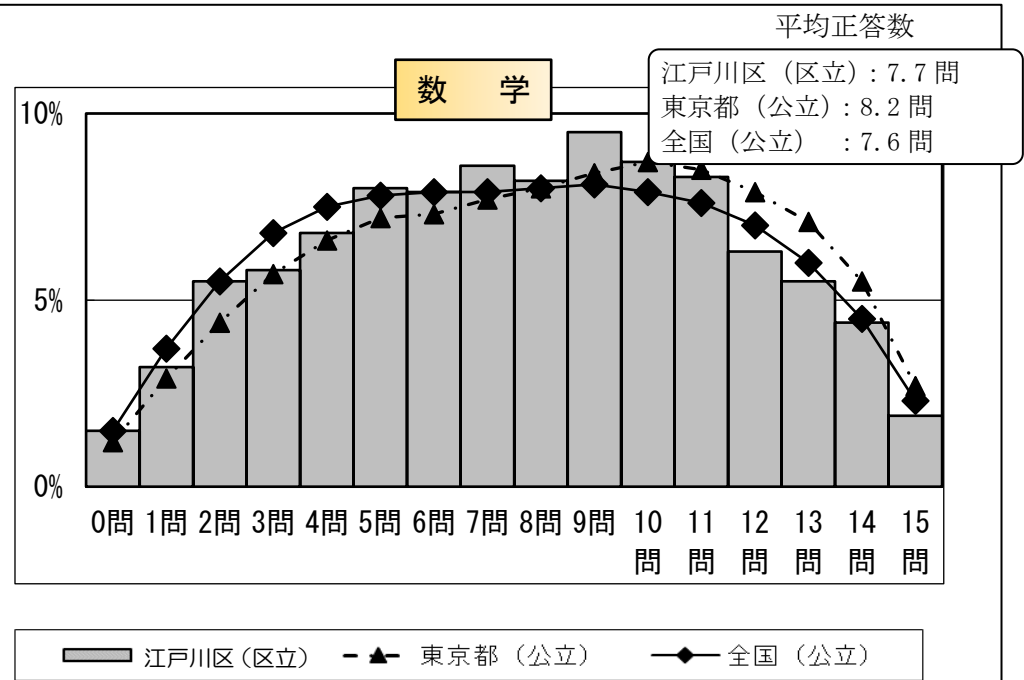
令和5年度 全国学力・学習状況調査結果報告【中学校】

正答数分布

国語



数学



<四分位における割合（都全体の四分位による）>

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、生徒数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって生徒をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の生徒の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都（公立）のデータを基に定めている。

国語	上位 ← → 下位			
	A層 13～15問	B層 12問	C層 9～11問	D層 0～8問
江戸川区（区立）	32.1	12.9	29.7	25.3
東京都（公立）	37.5	13.0	26.6	22.9
全国（公立）	33.4	12.9	28.1	25.6

%

数学	上位 ← → 下位			
	A層 11～15問	B層 8～10問	C層 5～7問	D層 0～4問
江戸川区（区立）	26.4	26.4	24.5	22.7
東京都（公立）	31.7	25.1	22.2	21.0
全国（公立）	27.4	24.0	23.6	25.0

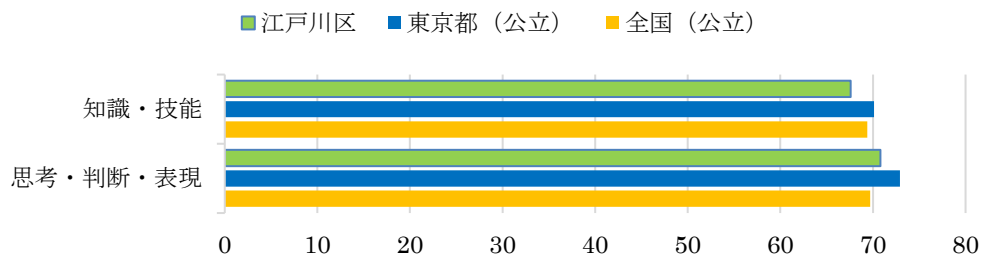
%

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果報告【中学校】

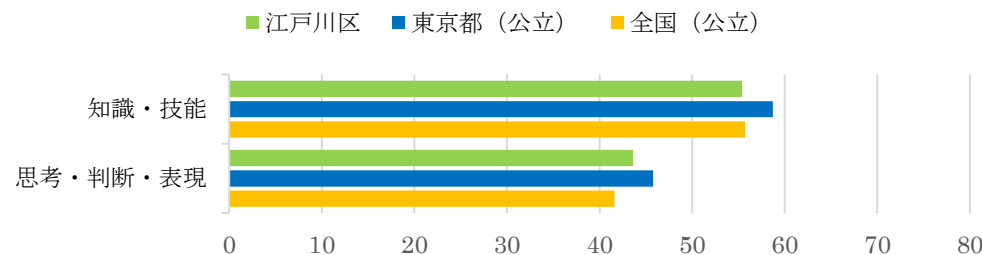
「領域別」の結果

以下、平均正答率（％）を示す。

国 語



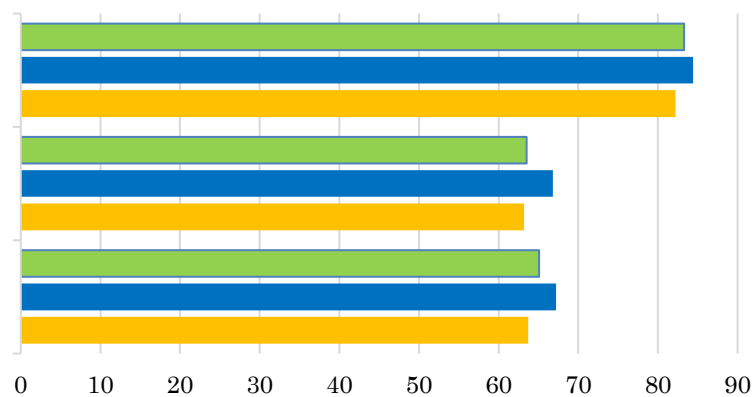
数 学



話すこと・聞くこと

書くこと

読むこと

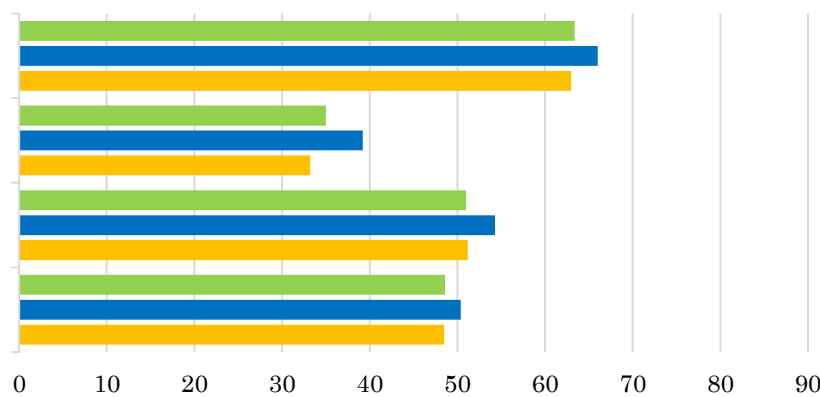


数と式

図形

関数

データの活用



【平均正答率の差】

	国語	数学
江戸川区（区立）	69%	51%
東京都（公立）	72%	54%
全国（公立）	69.8%	51.0%
都との差	-3ポイント	-3ポイント

【全国平均、東京都平均との関係】

<全国との関係>

○国語・数学とも、全国の平均正答率と同程度である。

○「思考・判断・表現」において、国語・数学ともには全国平均正答率を上回っている。「知識・技能」において、国語は全国平均正答率を下回り、数学は全国平均正答率と同程度である。

<東京都との関係>

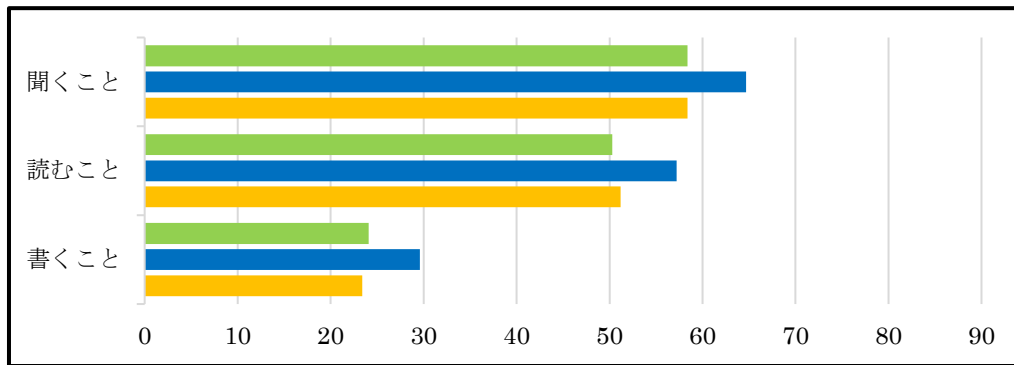
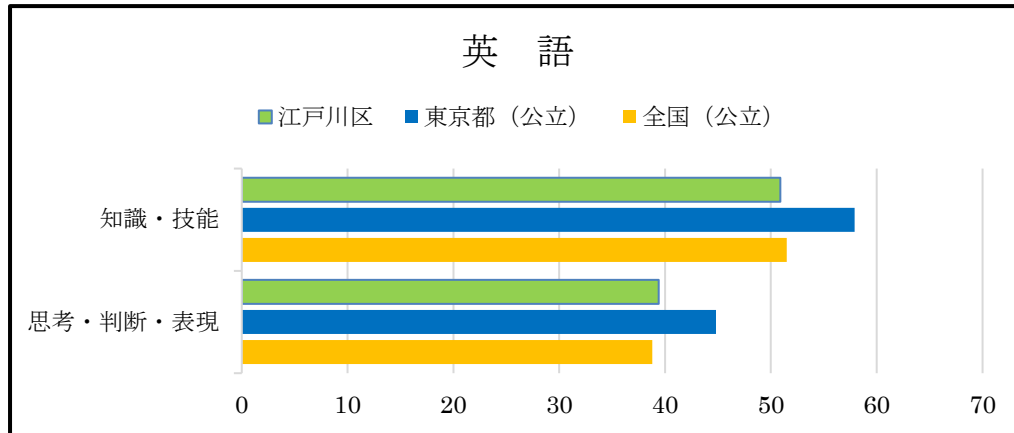
○国語、数学ともに、全ての領域において都平均正答率を下回る。

○「思考・判断・表現」において、国語は2.1ポイント、数学は3.3ポイント都平均正答率を下回り、「知識・技能」において、国語は2.5ポイント、数学は2.2ポイント都平均正答率を下回る。

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果報告【中学校】

「領域別」の結果

以下、平均正答率（％）を示す。



【平均正答率の差】

	英語
江戸川区 (区立)	45%
東京都 (公立)	52%
全国 (公立)	45.6%
都との差	-7ポイント

【全国平均、東京都平均との関係】

＜全国との関係＞

○英語について、書くことにおいては全国平均正答率を0.7ポイント上回る。

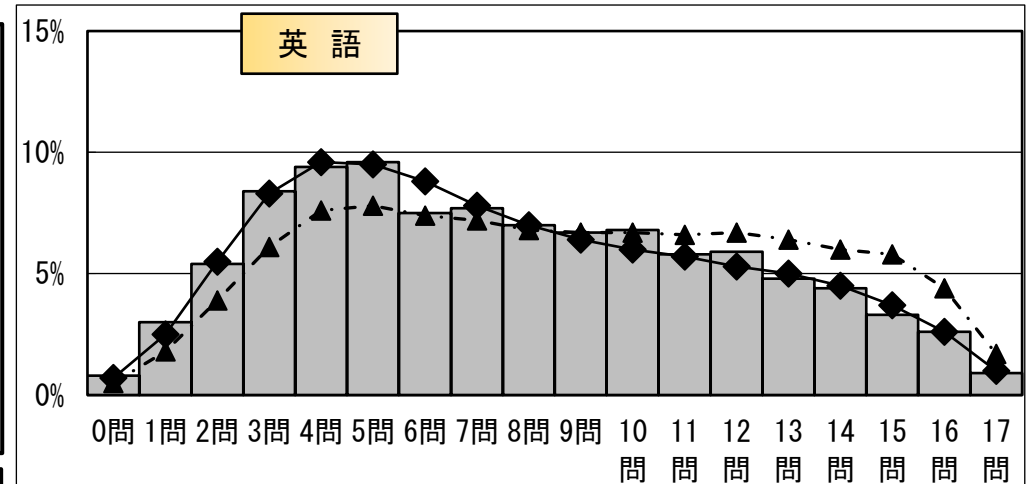
○「知識・技能」において、英語の正答率は、全国平均正答率を0.6ポイント下回るが、「思考・判断・表現」においては、全国平均正答率を0.6ポイント上回る。

＜東京都との関係＞

○英語について、全ての領域において都平均正答率を下回る。

○「知識・技能」において、英語の正答率は、都平均正答率を7.0ポイント、「思考・判断・表現」において、都平均正答率を5.4ポイント下回る。

正答数分布



江戸川区 (区立) 東京都 (公立) 全国 (公立)

上位

下位

英語	A層 12～17問	B層 9～11問	C層 5～8問	D層 0～4問
江戸川区 (区立)	21.9	19.3	31.8	27.0
東京都 (公立)	31.0	20.0	29.2	19.8
全国 (公立)	22.1	18.1	33.1	26.7

令和5年度「設問別」の結果と課題【中学校】

国語

平均正答率が全国より高い問題

【出題の趣旨】 2 二

観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができる。

【正答率】

江戸川区	66.9%
東京都	67.4%
全国	63.0%

【本区のこれからの取組】

本や文章などが様々な立場や考えから書かれていることを理解し、読む対象を選択する際の観点としたり、読み進める際の参考にしたりすることで自分の考えが広がり深まっています。

朝読書を通して、複数の本に触れることにより、全国よりも高い正答率になっていると考えられる。引き続き、朝読書を推進し、本を読むことを促していく。

2

中山さんは、本の読み方について考えるために、「A」と「B」の文章を読んでいます。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

- 1 主張に関わる言葉を引用することで、伝えたいことを印象付けている。
- 2 敬体で丁寧な言い回しに述べることで、伝えたいことを身近に感じさせている。
- 3 問いかけを用いることで、伝えたいことに興味をもたせている。
- 4 冒頭の一文に結論を示すことで、伝えたいことを明確にしている。

平均正答率が都・全国より低く、無回答率が高い問題

【出題の趣旨】 4 三

文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。

【正答率】

江戸川区	48.1%
東京都	54.1%
全国	50.0%

【無回答率】

江戸川区	20.6%
東京都	18.1%
全国	20.7%

【本区のこれからの課題】

文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることに課題がある。自分の考えが伝わるように、根拠を明確にして伝える力は、各教科等において必要不可欠な要素である。全ての教科等において、自分の考えをもち、他者に伝える活動を取り入れていく必要がある。その中で、相手に分かりやすく、説得力のある表現の仕方については国語科を中心に指導を行っていく。

4

石井さんは、国語の時間に、「竹取物語」を読みました。そのあと、学校図書館で、現代語で書かれた「竹取物語」を見付け、読み比べてみました。次は、「授業で読んだ「竹取物語」の「一部」の「原文」とその「現代語訳」、「学校図書館で見付けた「竹取物語」の「一部」です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

- 三 「学校図書館で見付けた「竹取物語」の「一部」は、古典の作品である「竹取物語」に、作家の足新一が工夫を加えて現代語で書いたものです。レコがどのように工夫されていると考えられますか。「授業で読んだ「竹取物語」の「一部」や「学校図書館で見付けた「竹取物語」の「一部」の表現を取り上げて、あなたの考えを書きなさい。なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

令和5年度「設問別」の結果と課題【中学校】

数 学

平均正答率が全国より低い問題

1 下のアからオまでの数の中から自然数をすべて選びなさい。

ア -5 イ 0 ウ 3 エ 4.7 オ 9

【出題の趣旨】1
自然数の意味を理解している。

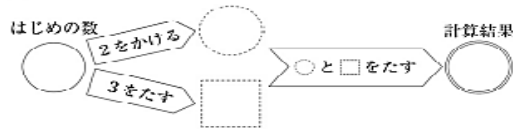
【正答率】
江戸川区 41.1% 東京都 46.9% 全国 46.1%

【本区のこれからの課題】
基礎的な知識を問う問題である。放課後補習教室や家庭学習をとおして、基礎的な知識・技能を確実に定着させ、さらなる学力の向上に努める必要がある。

平均正答率が全国より高いが、無回答率が高い問題

6 次の図1のように、はじめの数として○に整数を入れて計算し、計算結果を求めます。

図1



【出題の趣旨】6 (3) 結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明することができる。

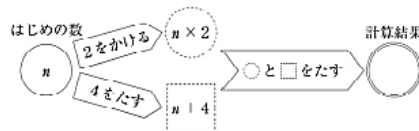
【正答率】
江戸川区 42.7% 東京都 44.7% 全国 40.9%

【無回答率】
江戸川区 23.2% 東京都 21.9% 全国 24.7%

【本区のこれからの課題】
説明する際には、前提として、はじめの数にける数が3、たす数が4であることや、かける数が4の倍数から1ひいた数、たす数が4の倍数であることを明示する必要があり、計算結果はいつでも4の倍数になることを記述する必要がある。(1)(2)で答えを導き出せたが、より複雑な過程になってくるとあきらめてしまっている。文章の読解力や思考の過程を図に書いてまとめていくなどの取組を繰り返して行く。

(3) 夏希さんは、7ページの図1の「2をかける」のかける数「2」は変えずに、「3をたす」のたす数「3」を4の倍数である「4」や「8」に変えれば、計算結果がいつでも4の倍数になると考えました。そして、はじめの数としてどんな整数を入れても「はじめの数にける数が2、たす数が4ならば、計算結果はいつでも4の倍数になる」と予想しました。
そこで、夏希さんは、はじめの数として入れる整数を n とし、次の図3をかき、下のように計算しました。

図3



夏希さんの計算

はじめの数として入れる整数を n とすると、はじめの数に2をかけた数は $n \times 2$ 、4をたした数は $n + 4$ と表される。
計算結果は、
$$n \times 2 + (n + 4)$$
$$= 2n + n + 4$$
$$= 3n + 4$$

計算結果が $3n + 4$ となることから、はじめの数としてどんな整数を入れても「はじめの数にける数が2、たす数が4ならば、計算結果はいつでも4の倍数になる」という予想は成り立たないことがわかります。

上の夏希さんの計算をもとに考えたとき、はじめの数にける数がいくつ、たす数がいくつならば、計算結果はいつでも4の倍数になると予想できますか。「～ならば、……になる」という形で書きなさい。

平均正答率が都、全国より高い問題

5 ある市の中学生の水泳大会における女子50m自由形に出場した40人の記録を調べました。調べた結果を、次の累積度数を含めた度数分布表に整理します。

女子50m自由形の記録

階級(秒)	度数(人)	累積度数(人)
以上 未満		
27.00 ~ 28.00	3	<input type="text"/>
28.00 ~ 29.00	2	<input type="text"/>
29.00 ~ 30.00	4	ア
30.00 ~ 31.00	11	<input type="text"/>
31.00 ~ 32.00	8	<input type="text"/>
32.00 ~ 33.00	6	<input type="text"/>
33.00 ~ 34.00	3	<input type="text"/>
34.00 ~ 35.00	3	<input type="text"/>
合計	40	

女子50m自由形の記録の「ア」には最小の階級から29.00秒以上30.00秒未満の階級までの累積度数が入ります。「ア」に入る値を求めなさい。

【出題の趣旨】5
累積度数の意味を理解している。

【正答率】
江戸川区 47.7% 東京都 46.5% 全国 46.1%

【本区のこれからの課題】
不確定な事象についてのデータに基づいて考察する場面において、情報を分類したり整理したりすることや累積度数の意味を理解できているかについて、東京都や全国より平均正答率が高い。しかし、50%に満たない状況であり、引き続き、基礎的な知識・技能を確実に定着させていく。

令和5年度「設問別」の結果と課題【中学校】

英語

平均正答率が全国より高い問題

1 (放送問題)

話される英語を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を、それぞれ1から4までの中から1つ選びなさい。

(1)

(2) <道案内>

(3) <買物>

(3) A: Hello. May I help you?
 B: Yes, please. I want to buy a new bag.
 A: O.K. How about this bag with some stars on it? It's very popular.
 B: It's nice! I'll take the bigger one.

【出題の趣旨】1 (3) 聞くこと

情報を正確に聞き取ることができる。

【正答率】江戸川区 53.7% 東京都 57.2% 全国 49.8%

【本区のこれからの課題】

文における基本的なイントネーションや文における区切りなどの音声の特徴を踏まえて、情報を正確に聞き取ることができるかが問われている。日頃よりデジタル教科書を活用し、ネイティブの発音を聞き取り会話する授業が展開されてようになり、全国より高い正答率になっていると考えられる。しかし、50%強の正答率にとどまっているため、さらにデジタル教科書の活用やオールイングリッシュの授業実践を促していく。

平均正答率が全国より低く、無回答率が高い問題

- 9 (2) 次の英文は、ある生徒が文書作成ソフトを使って、スピーチコンテスト (speech contest) についてスミス先生 (Mr. Smith) 宛てに書いた【メール文の下書きの一部】です。送信する前に友達に相談したところ、友達から【コメント】をもらいました。【コメント】にしたがって、下線部を書き直さない。

【メール文の下書きの一部】

Dear Mr. Smith,

How are you?

We have a speech contest next Friday.

The speech contest starts at 10:00.

You have to come to the speech contest.

【コメント】



この英文は、依頼する表現に修正したほうがよいと思う。

【出題の趣旨】9 (2) 書くこと

「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができる。

【正答率】江戸川区 27.7% 東京都 36.9% 全国 29.0%

【無回答率】江戸川区 22.2% 東京都 19.9% 全国 24.5%

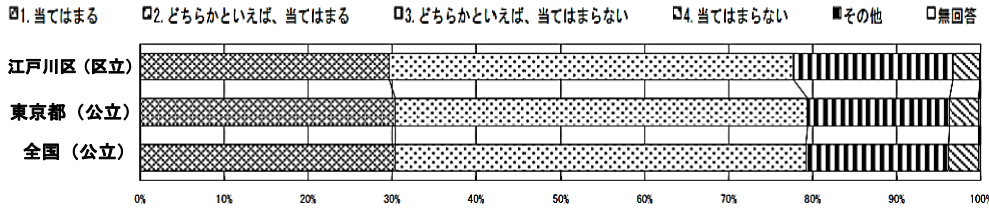
【本区のこれからの課題】

メールの英文を依頼する表現に書き換える問題に対応するためには、普段からコミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて表現を使い分けるために、そのための表現を理解しておく必要がある。ペアワーク等で教科書の本文を読み合うだけでなく、目的をもった会話を取り入れるなどの授業改善を図っていく。

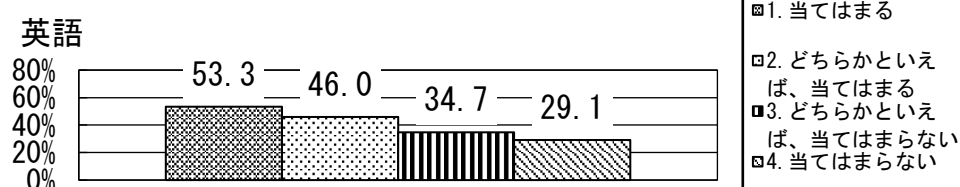
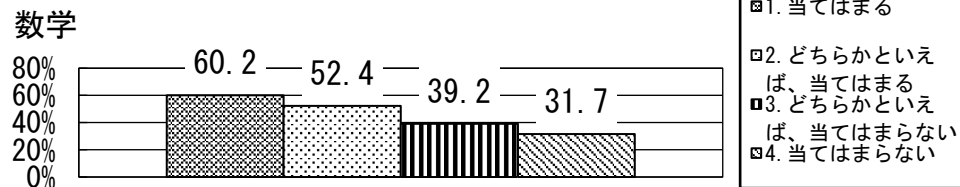
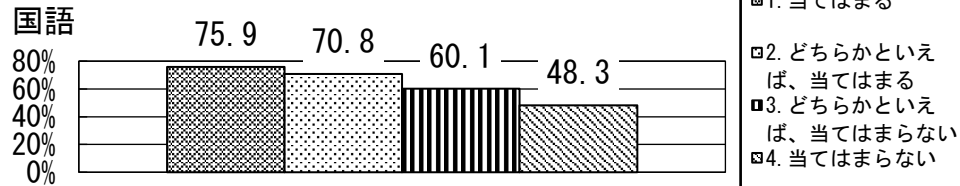
令和5年度 生徒質問紙調査【中学校】

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

37 1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



授業への主体的な取組と学力のクロス集計

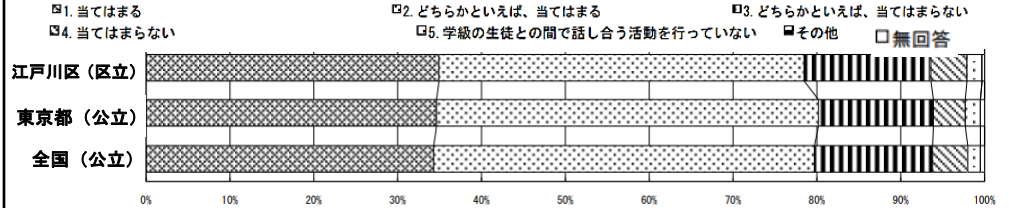


「当てはまる」と肯定的に回答した生徒の割合が、全国及び都を若干下回っている。課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいると回答した生徒の方が、そうでない生徒よりも平均正答率が高い傾向にある。

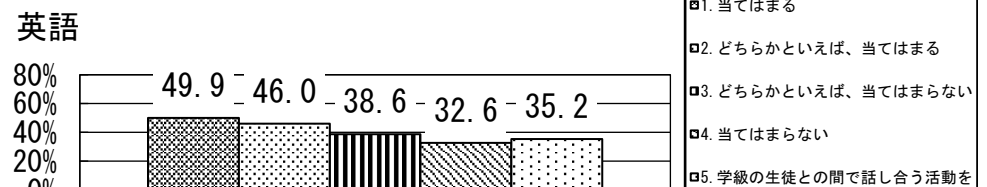
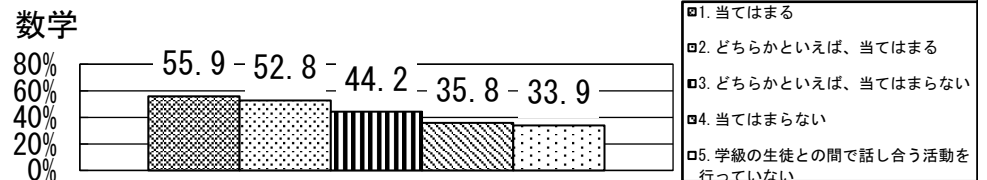
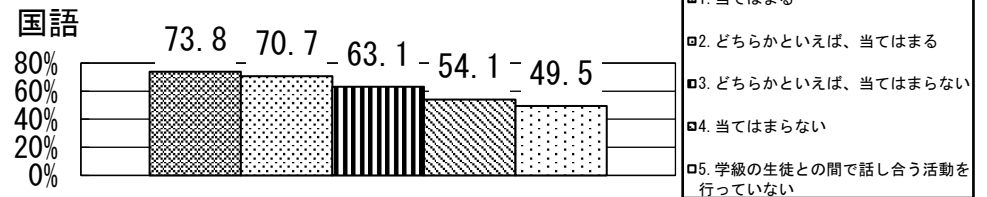
生徒が課題に対して主体的に取り組むことができるよう、授業の導入や教材の内容、課題提示等の工夫をし、自主的・自発的に学習に取り組む態度を養う必要がある。

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

40 学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか



授業への対話的な取組と学力のクロス集計



「当てはまる」と肯定的に回答した生徒の割合が、全国及び都を上回っている。課題の解決に向けて、他者と対話し、自分で考え、広げることができる」と回答した生徒の方が、そうでない生徒よりも平均正答率が高い傾向にある。

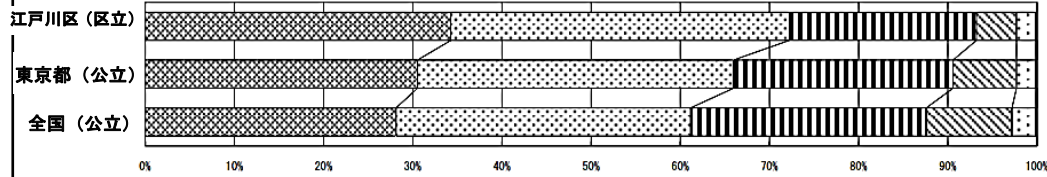
生徒が対話を通して課題解決に向けて取り組むことができるよう、教材の内容、課題提示等の工夫をし、授業改善を促していく必要がある。

令和5年度 生徒質問紙調査【中学校】

ICTを活用した学習状況

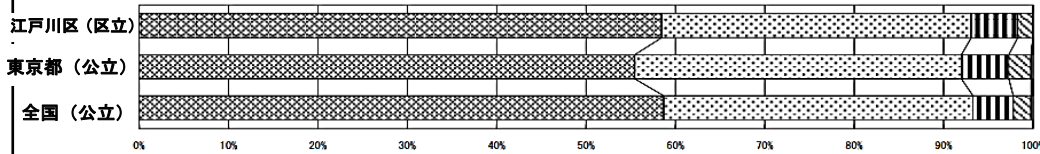
33 1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使いましたか。

□1. ほぼ毎日 □2. 週3回以上 □3. 週1回以上 □4. 月1回以上 □5. 月1回未満 ■その他 □無回答



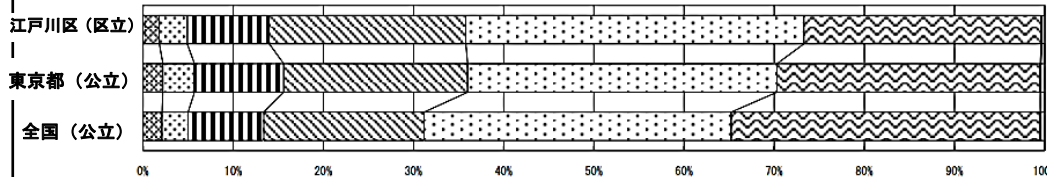
34 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つかと思いますか。

□1. 役に立つと思う □2. どちらかといえば、役に立つと思う □3. どちらかといえば、役に立たないと思う □4. 役に立たないと思う ■その他 □無回答



35 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PCやタブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか。

□1. 3時間以上 □2. 2時間以上、3時間より少ない □3. 1時間以上、2時間より少ない □4. 30分以上、1時間より少ない □5. 30分より少ない □6. 全く使っていない ■その他 □無回答



学校の授業で、PC・タブレットなどのICT機器の使用状況について、「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」と回答した生徒の割合が、都と全国の割合を上回っている。

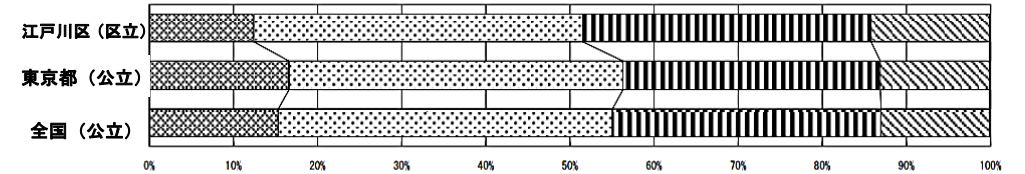
また、学校の授業時間以外にPC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使用することについて、「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した生徒の割合が、都を上回り、全国と同程度である。

「一人一台端末の活用」と、「主体的・対話的で深い学び」を重視した授業改善が求められる中、生徒自らがICT機器を活用して学習していく取組を推進していく必要がある。

学習習慣・学習環境等

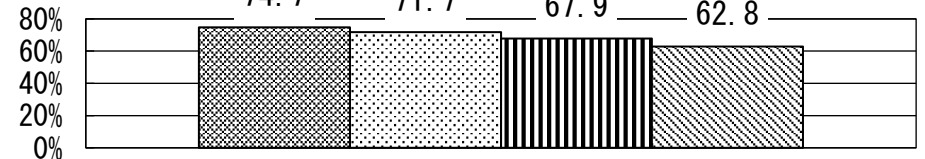
18 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）

□1. よくしている □2. ときどきしている □3. あまりしていない □4. 全くしていない ■その他 □無回答

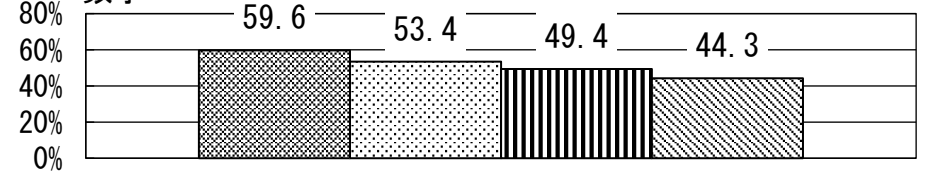


学習計画と学力のクロス集計

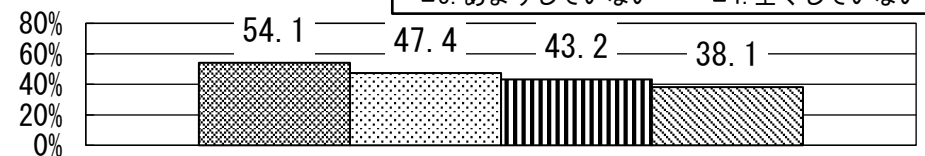
国語



数学



英語



「自分で計画をたてて勉強をよくしている」と回答した生徒の割合が、全国及び都を下回っている。自分で計画的に勉強を進めていると回答した生徒の方が、そうでない生徒よりも平均正答率が高い傾向にある。

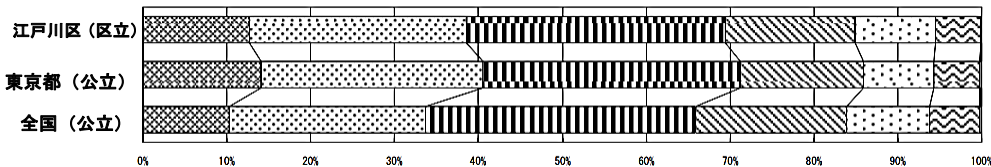
授業以外にも生徒が自発的に学習を続けられるよう、放課後補習教室の活用、一人一台端末での家庭学習等、生徒が自ら意欲的に学習できる環境を整えることが必要である。

令和5年度 生徒質問紙調査【中学校】

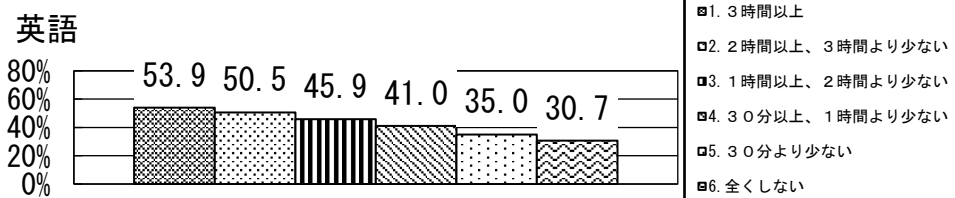
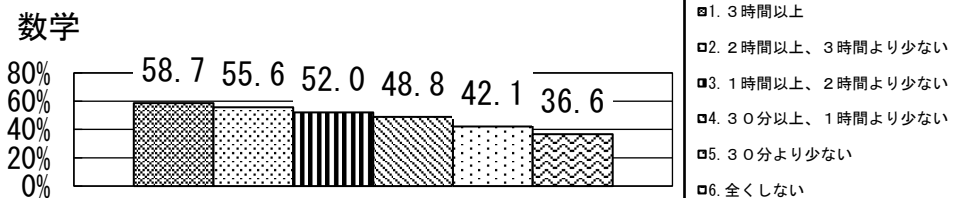
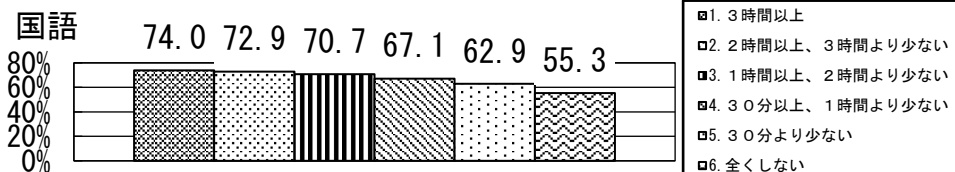
学習習慣・学習環境等

17 学校の授業時間以外に普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネット学習を含む）

1. 3時間以上 2. 2時間以上、3時間より少ない 3. 1時間以上、2時間より少ない 4. 30分以上、1時間より少ない
5. 30分より少ない 6. 全くしない その他 無回答



学習習慣と学力のクロス集計

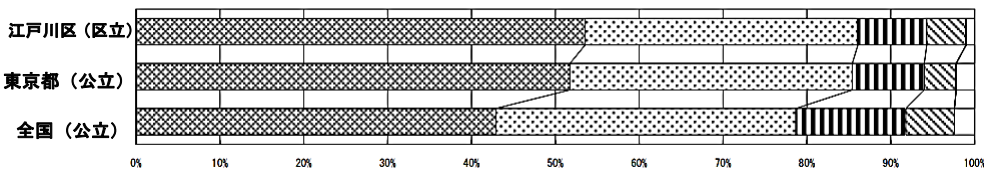


学校の授業時間以外の勉強時間が「3時間以上」から「1時間以上」と回答した生徒の割合が、全国より上回っているが、都よりは下回っている。学校の授業時間以外の勉強時間が多い生徒の方が、そうでない生徒よりも平均正答率が高い傾向にある。
放課後補習教室や家庭学習等とおして、個人が自分のペースで取り組みたい教科を自ら意欲的に学習し、さらなる学力の向上に努める必要がある。

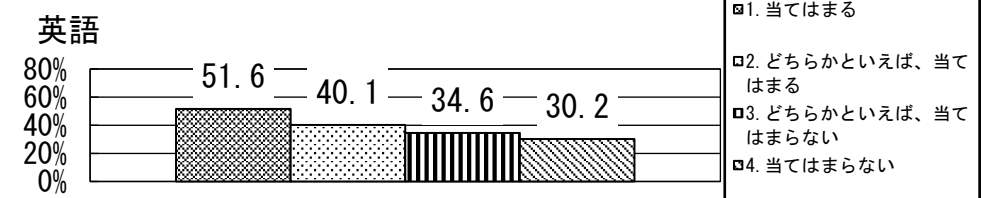
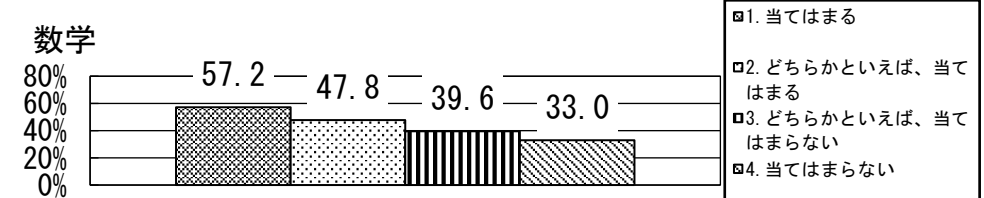
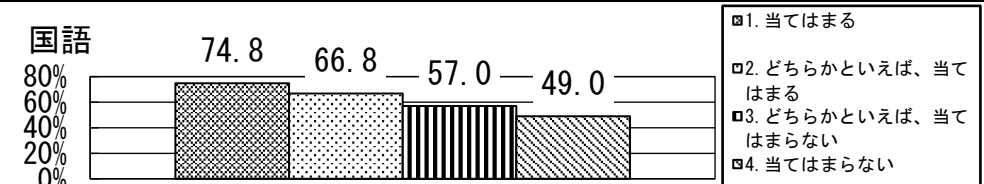
外国語の話すことの取組

69 1, 2年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか。

1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない その他 無回答



英語での発表活動と学力のクロス集計



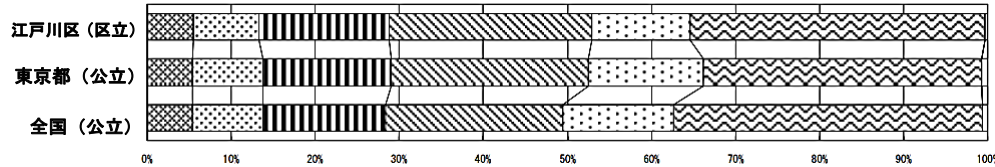
「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的に回答した生徒の割合が、全国及び都を上回っている。「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えている生徒の方が、そうでない生徒よりも平均正答率が高い傾向にある。
外国語の授業の中で、デジタル教科書を活用して生徒に声を出させることや、生徒同士もしくはALTと話す場面を多く取り入れるなどの授業改善を進めていく必要がある。

令和5年度 生徒質問紙調査【中学校】

読書習慣

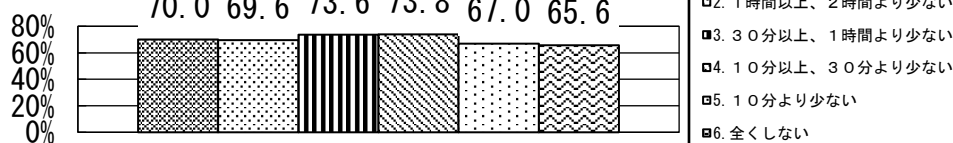
20 学校の授業時間以外に普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書しますか（電子書籍の読書を含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）

1. 2時間以上 2. 1時間以上、2時間より少ない 3. 30分以上、1時間より少ない 4. 10分以上、30分より少ない
5. 10分より少ない 6. 全くしない その他 無回答

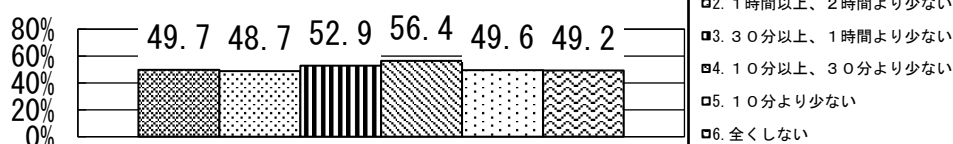


読書習慣と学力のクロス集計

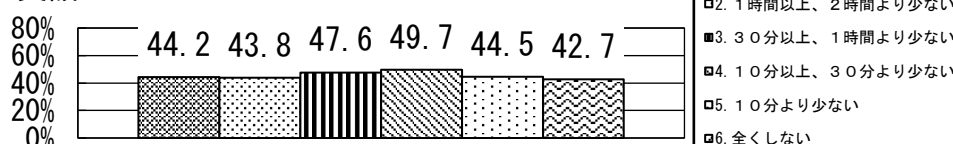
国語



数学



英語



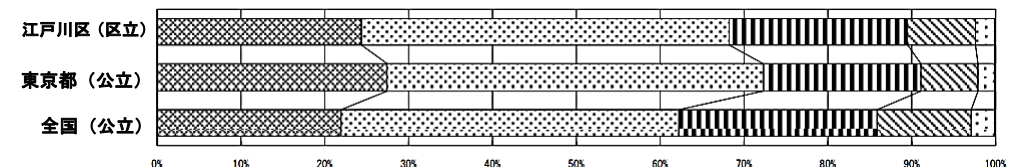
学校の授業時間以外の勉読書時間が「30分以上」と回答した生徒の割合が、全国及び都と同程度となっている。国語においては、学校の授業時間以外の読書時間が多い生徒の方が、そうでない生徒よりも平均正答率が高い傾向にある。

読書科の朝読書を通して、本に親しむ生徒が多くなっているが、自発的に読書しようという意識は高まっていないと考えられる。学校図書館の電算化を進め、本を借りやすい環境を整備することや、公共図書館の巡回職員の活用事例を紹介するなど効果的に進めていく。

発表活動の取組

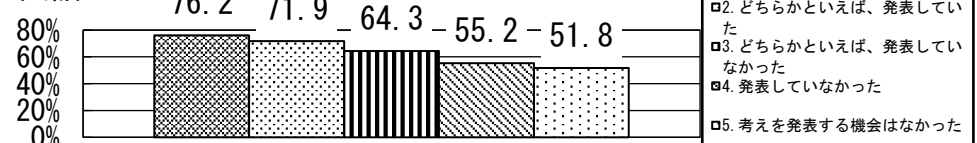
36 1, 2年生のときに受けた授業では、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか

1. 発表していた 2. どちらかといえば、発表していた 3. どちらかといえば、発表していなかった
4. 発表していなかった 5. 考えを発表する機会がなかった その他

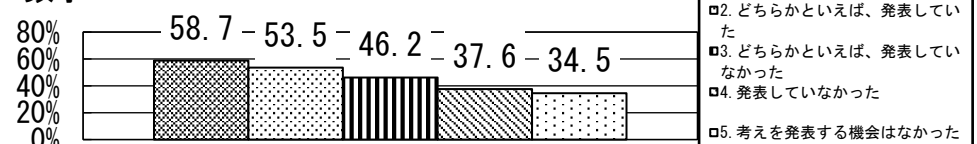


発表活動と学力のクロス集計

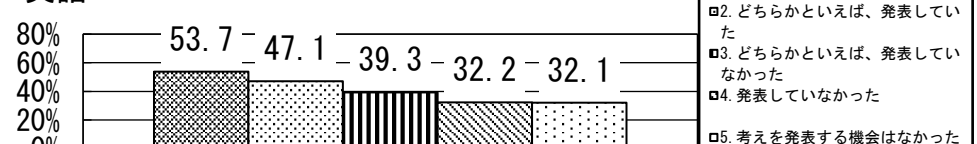
国語



数学



英語



「発表していた」「どちらかといえば、発表していた」と回答した生徒の割合が、全国を上回っている。「発表していた」「どちらかといえば、発表していた」と答えている生徒の方が、そうでない生徒よりも平均正答率が高い傾向にある。

生徒の発表場面を作ることだけでなく、どのようにしたら相手に伝わりやすいかを考えさせ、ICT機器の効果的な活用も含め、指導できるように授業改善を図っていく必要がある。

令和5年度 学力向上に関わる主な取組【中学校】

○「誰一人取り残さない学力向上アクションプラン」の策定

- ・「江戸川区立学校における学力向上に向けた取組の指針について」における論点を基に、学力向上に向けた具体的な取組を推進

○「補習教室」の実施

- ・放課後補習教室事業の実施（令和4年度から全校で実施） 令和5年度から、数学に加え、英語も実施
- ・年間約150日間実施

○東京方式 習熟度別指導ガイドラインに基づく効果的な「習熟度別指導」「少人数指導」の推進

- ・数学、英語の授業において、効果的な「習熟度別指導」「少人数指導」を実施

○ICTを活用した協働学習の推進

- ・各教科等の授業で一人一台端末を活用し、授業改善を実施

○学校図書館の活用

- ・学校図書館の環境整備を進め、各教科等で学校図書館を活用
- ・学校図書館への区立図書館職員の全校巡回

○「読書科」の充実

- ・読書を通じた探究的な学習を通して、生涯にわたって主体的に学び続けていくための資質・能力を育成（全校の各学年で年間35時間実施）
- ・読書科推進研修の拡充（年間7回）

○ミライシード ドリルパークの活用

- ・ミライシード ドリルパーク（国語、社会、数学、理科、英語）を活用した放課後補習を実施（ICT支援員を派遣）
- ・生徒の自宅での活用を推奨（IDとパスワードを配布）
- ・「ミライシード ドリルパーク 江戸川っ子 study week!」の実施（各学期に1週間の実施し、平均年間総学習回数が多い学校を表彰）